



いまだに倒壊したままの家やがれき、倒壊や火災ですつと先まで何も無い土地、アスファルトが剥がれデコボコの道…。



これが、現在の石川県輪島市の現状。以前の記事で、社会人になる娘とのサイエンスショーのラス

57 娘と再びコンビ

教育×笑い=∞
エデュテイメント
 大阪成蹊大准教授 福岡亮治




トステージについて書きましたが、「能登半島の子ども達を笑顔にしたい」というテレビ局の企画

で、娘と再びコンビを組んで、現地の幼稚園の子どもたちに向けてショーをしました。

ユニバーサルデザイン授業、手応え

3〜6歳の子どもが飽きないように、「見た目でわかる教材」「思わず没入する教材」「楽しい授業展開」「大人も戸惑う問い」「問わずともおのずと生まれる問い」を意識していると、結局、ユニバーサルデザイン授業の実践研究として構成したパラオ用のサイエンスショー(昨年9月に実施)と同じような内容になりました。子どもたちは笑顔いっぱいで大盛り上がり! 言葉が伝わらなくても理解できるように、と構成したパラオ用のショーは、小さな子にもわかりやすい内容になったよ



この子たちは、新型コロナウィルス禍の緊急事態宣言やマスクの着用などで子どもらしく遊ぶことが制限され、やっと5類移行になったと思ったら、昨年の元旦に能登半島地震が発生。復興のただ中にある9月の能登半島豪雨により、河川の氾濫、土砂災害、床上浸水に遭遇。水害後の衛生上の理由から再び外出禁止となり、遊ぶことを制限されてきた子どもたち

うです。「言語の壁を超えるサイエンスショーは年齢の壁も超える」。ユニバーサルデザイン授業に手応えを感じました。

にどうしても喜んでほしかったので、すてきな機会をいただけたことに感謝しています。ショーの後、被災者の方からたくさん話を聞いて感謝していただき、いろいろと考えるものがありました。4月から報道機関で働く娘も何か感じるものがあったと思います。漫才を含めると20年間の娘とのラストステージでは、積み上げてきたものが人様の役に立つという手応えを感じ、とても温かい気持ちになりました。サイエンスショーの様子は23日午前6時30分から、読売テレビ「こどもちようせんパラエティ いろいろ」で放送予定です。ぜひご覧ください。